

委員会視察成果報告書

令和7年10月14日

犬山市議会議長 大沢 秀教 様

議員名 5番 小川 隆広

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和7年9月30日(火) (0泊 1日)
(2) 視 察 地	愛知県半田市（市立半田中学校・市立半田小学校）
(3) 視察の種類	常任・特別 委員会（ 民生文教委員会 ）
(4) 視 察 成 果 (視察地ごとに記入)	〈視察概要〉 今回の視察は愛知県内の自治体で、市内小中学校の体育館にスポットクーラーによる安価な空調整備を行った事例があるとのことから視察することを決定、昼間帯に外気温が高くなる時季に効果を確認したいことから急きょ9月末日での実施となった。 視察では、愛知県半田市の市立小中学校体育館を訪問し、設置されたスポットクーラー（空調システム）についての説明を受け、質疑応答を行った。 半田市内小中学校に導入された体育館のスポットクーラーの風量は申し分なく、吹出口の直線上に立つと風をしっかりと感じるができる。当日の外気温は約28度で汗ばむ程度だったが、体育館内は大変涼しく、快適に感じられるほどだった。しかし説明では、この空調システムの主な目的は「快適な空間を作ることではなく、子どもたちが熱中症にならないようにすること」だと強調された。 導入経緯については、令和6年度に市長部局の子ども育成課が児童の居場所として体育館を活用する提案をしたことがきっかけとなり、三重県鈴鹿市の先行事例を視察し、決定したとのこと。最初は、市内のひとつの小学校に先行導入・試行した。効果が確認できたため他の小中学校にも展開した。



設置にかかるコスト面では、一校あたり、電気の引き込み工事も含めて約3,400万円かかり、そのうち約2,000万円は交付金でまかなわれた。従来のエアコン導入に比べると、約8,000万円の想定から大幅に削減できたと説明があった。電気代は月に約10万円程度と見込まれていた。

設置条件として断熱工事が必要だったが、以前の天井改修時にウレタンフォームを吹き付けていたため、それを断熱工事として認めてもらえた。一部の学校では補助金ではなく市の単費で断熱対策を行ったと説明があった。

小中学校の体育館は避難所としても指定されており、災害時には防災部局が所有する発電機を使用して空調を部分稼働させるといった話や、バドミントンや卓球などの競技への影響について説明があり、特にバドミントンでは、風の影響を考慮した運用がされていた。

学校側より、夏休み中に実施した地域の防災イベントで、地域住民より「夏の災害時の避難所としての信頼が高まった」との声をいただいた、空調が完備された学校体育館に安心感を持ってもらうことができたと同った。

パネル操作について説明を受けた。温度設定は16～18度で運用している。暖房機能もあり、28度まで設定可能だが、暖気が上に溜まるため夏ほどの効果は期待できないと説明があった。

配線や設置方法について説明があった。スポットクーラーはキャットウォーク上に7～9台設置され、室外機は直近の外部に設置されていた。体育館内の配置は効果を最大限発揮できるよう議論されたとのことだが、ある中学校では片側に設置せざるを得ない状況だった。効果については、それでも十分発揮できているとのことだった。

所感を述べる。

訪問前はスポットクーラーと聞いて懐疑的だったが、完全に冷房装置である。体育館内は申し分ない涼しさだった。酷暑日や猛暑日では多少冷房能力の限界も見えらるうが熱中症対策として十分効果が

	あると思う。建築して年数が経過している体育館に設置するには費用対効果でも適当なものであると考える。 設置に当たっては、キャットウォークの耐久性と、室外機の取り付け位置、断熱工事が必要だが、どこまでやる必要があるのか曖昧なことが課題と考える。 訪問した半田市のような格好で、実施が可能であれば、防災の観点からも早急に実施すべきものとする。
(5) 犬山市に対する提言	近年、特に防災のこともあり、避難所となる小中学校体育館の冷房化は、愛知県内の各自治体で進んでいる。所感でも述べたように、半田市のような格好で、実施が可能であれば、防災の観点からも早急に実施すべきものとする。そのために、本市の小中学校体育館のキャットウォークの耐久性はどうか、室外機の取り付け位置はどうか、断熱工事をどこまでやる必要があるのか早急に調査すべきと考える。
	〈参考写真〉 

